

集落住民の住みやすい「やすらぎの里」づくり

鶴木地区むらづくり委員会

末吉町鶴木

鶴木地区は、曾於市の中央を横断する国道10号線沿いに位置し、標高約330メートルの高之峯の南側の裾野に広がる世帯数41戸、人口107人(平成22年4月現在)。地区内の65歳以上の割合は約40%で、19歳以下はわずか5人と少なく、少子高齢化が進んでいる地域でもあり、産業として、園芸作物・普通作物・畜産等の農業が盛んなところです。

この鶴木地区で村づくりの機運が高まったのは、5年前で、約40年の県外でのサラリーマン生活を終え、鶴木にUターンされたむらづくり委員会会長が、「このふるさとで自分に出来ることは何かないだろうか」と、幼なじみであったむらづくり委員会副会長と会話する中で、「幼い頃に遊び親しんでいた瀬戸道が、すっかり荒れ果ててゴミ捨て場のようになっている、これを当時の姿へ再生できないか。」と話がまとまり、ここに地区のむらづくりが始まりました。

まず、地区内の皆に声をかけ、瀬戸道の復活に賛同した40歳代から70歳代までの仲間25人が集まり、ボランティア団体「鶴木維新会」を設立。その名称は、瀬戸道が明治維新の頃に整備されたという地区に伝わるエピソードから名付けられた。

瀬戸道は、地元の関係住民との調整がうまくいったことや、市から砂利の支給補助等により、平成18年8月に以前の姿を取り戻しました。

この瀬戸道の再生をきっかけに、鶴木池の再生や憩いの広場の整備など次の課題への機運が高まり、鶴木地区むらづくり委員会を発足しました。これらの課題を解決するために、＜集

落住民の住みやすい“やすらぎの里”づくり>を目指して、営農部門や生活部門(子供会、婦人会、老人会、消防団を束ねる鶴木自治会)で話し合いを重ね、この紙面で紹介しきれないほどの実績を上げてくれました。

鶴木地区のこれまでの取組をご紹介します。

- ① 瀬戸道の復活(平成18年度)
- ② 鶴木池の復活(平成20年度)
- ③ 散策道、集落道の整備
- ④ 地区公民館の新築(平成20年度)
- ⑤ グラウンドゴルフ場の整備
- ⑥ 農産物直売所の開設
- ⑦ 遊休農地活用で資金づくり(甘藷・だいこん・そば)
- ⑧ そば打ち交流会(むらづくり委員会で生産したそばを使って近隣の柳迫小学校で)
- ⑨ 地区内の維持管理の点検パトロール(道の美化作業は常時心がけ草払いを実施)
- ⑩ 近隣他地区への活動助言や支援等

これらの実績が認められ、去る5月27日、「鹿児島県共生・協働のむらづくり」の模範地区として、県の表彰を受けられました。

表彰の報告に訪れた会長(神崎憲幸さん)・副会長(三原純廣さん)



今後は、さらに住みよい集落づくりを進めるため、池の整備、高之峯に通じる林道や、残る瀬戸道の整備等、まだまだ夢は広がります。鶴木池の復活が実を結び、今年は50匹ほどの蛍の乱舞も見られ、鑑賞の場所となりつつあり、併せて、鶴木池に流れ込む水源の調査を行ったところ、高之峯の中腹にその源流点を発見、近隣の小学校の環境学習の場として活用できるよう整備していきたい。むらの改革は住んでいる自分たちで考え、仲間みんなで取組むことが何よりも大事だと言えます。

今後も、「住みよい、住みたいと思われる地区を目指していきたい」と会長、副会長はこれからのむらづくりを熱く語っておられます。



復活した瀬戸道



復活した鶴木池



公民館落成を祝う自治会員



資金づくりの大根の収穫